

野菜カット工場を軸とした生産振興の取組

～みえなか農業協同組合（三重県）～

1 組織の概要

組織名称	みえなか農業協同組合
組織形態	農業団体
代表者名	代表理事組合長 山本 清巳
所在地	三重県松阪市豊原町1043-1
連絡先	営農部 園芸特産課 川崎
販売額（令和4年度）	加工・業務用 キャベツ 48,000千円
取組者数（令和4年度）	加工・業務用 キャベツ 72人



2 取組の推移

昭和42年	「中勢」（春キャベツ・冬キャベツ）が野菜指定産地に指定。
平成18年	三重中央農業協同組合加工施設を整備（ベジマルファクトリー）。加工・業務用キャベツの生産開始
平成28～29年	加工・業務用野菜生産基盤強化事業（国）の活用。
令和3年	3月 J A ベジマルファクトリー株式会社を三重中央農業協同組合51%、全国農業協同組合連合会49%出資の子会社として設立。 4月 J A ベジマルファクトリー株式会社に事業移管し事業開始。 ※三重中央農業協同組合は、令和3年4月1日、合併によりみえなか農業協同組合となった。

3 加工・業務用野菜の取組概要

(1)基礎情報

取扱品目	主にキャベツ
作付面積	令和4年度実績 キャベツ 37ha
出荷量	令和4年度実績 キャベツ 1,000t
出荷時期	11月～6月
品 種	県農業改良普及センター推奨品種
主な出荷先 (主な用途)	全国農業協同組合連合会 三重県本部 (キャベツを中心としたカップサラダ)
出荷形態等	鉄コンテナ
取引先からのニーズ	キャベツは1玉18cm以上 1kg以上、鮮度

(2)取組のきっかけ

旧ＪＡ三重中央管内では、安定収入が見込める加工・業務用野菜に取り組みたい生産者の意向により、平成18年に三重中央農業協同組合加工施設を設置。

(3)取組の特徴

①県農業改良普及センターと協力し、栽培指針を毎年見直しながら栽培技術の確立に取り組んでいる。苗生産の労力低減と安定供給のため、ＪＡが野菜育苗センターで苗を生産し、生産者に供給している。

②ＪＡと全農が連携し、産地と契約することで市場価格に左右されない取引を行い、生産者の経営安定と産地の持続的な生産体制の維持をはかる。



(4)関係機関の支援

栽培指針の見直し等生産技術面で県農業改良普及センターの支援を得ている。
加工・業務用野菜生産基盤強化事業（国）の活用（平成28～29年）。

4 販売先の開拓

全農三重県本部を通じて、実需者であるＪＡベジマルファクトリー(株)へ販売。



5 課題とその対応

①出荷期間中の出荷量の平準化と安定化という要望に対し、品種による出荷期間の分散による平準化と生産者の作業の分散化に向けて取組み中。

②JAみえなか加工野菜生産部会を設置し、契約栽培により加工計画数量を確保している。

6 取組成果

契約栽培の数量は年々増加し、生産者の野菜部門の収入増に貢献している。

7 今後の展開

地域農業者による契約栽培のニーズは高く、生産規模拡大に合わせて新たな実需先を開拓し、生産基盤の維持拡大をはかる。